

令和7年度 学校評価報告書 【国立市立国立第一中学校】

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。(重点目標) 豊かな創造性を養おう。 思いやる心をもとう。(重点目標) 健康な心身をつくろう。 	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学び、考え、自主的な行動をしよう。 思いやる心をもとう。
--------	---	------	---

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標		達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
				中間評価	最終評価	中間評価	最終評価			
う。自ら学び考え自主的な行動をしよう(重点目標)	確かな学力の向上	指導方法及び指導計画を適宜見直しながら、学びの質を高める。	①本時のねらい及び本時の流れを明確化するために毎授業で黒板に提示し、学習に見通しをもたせる。 ②1人1台端末及びデジタル教科書、教育支援ソフトを活用した授業を行う。 ③放課後学習教室を充実させる。	①生徒授業評価アンケートの教員の指導面に関するアンケート結果、及び教員の反省アンケートの結果の肯定的な意見が共に80%を超えるようにする。 ②学期1回の授業観察の内、2回以上の授業で1人1台端末及び教育支援ソフトを活用した授業を全教員が行う。 ③放課後学習教室を年間30回以上実施する。毎回20名以上の生徒の学習を支援し、学力の底上げを行う。	B	B	①アンケート結果での肯定的な意見は89%へ上昇し、ICT機器の活用は81.7%であった。 ②通年の授業観察でのICT機器の活用状況は100%であった。どの教科でもデジタル教科書や「本時のねらい」「流れ」の提示等、提示装置としての使用は充実させることができた。 ③放課後学習教室は通年で30回実施した。人数は申込数19名で実施できた。9月からは地域の方々による「放課後自習カフェ」を実施し、1日あたり30～60名の利用があるなど、自習の場としても軌道に乗せることができた。	①「本時のねらい」「授業の流れ」を明記して学習に見通しをもたせることができたので、次年度は「まとめ」の時間を充実させる。 ②ICT機器の活用については、全教科で実施できているので、今後は教科の特性も踏まえながら能動的、効果的な活用方法について推進していく。 ③放課後学習教室として学習習慣をつけるための教室と、生徒が自由に参加できる「放課後自習カフェ」を同時期開催して、より多くの生徒が利用できる場づくりを推進する。	B	
			個別最適な学び、及び協働的な学びを適時実践し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行う。	①各教科の少人数授業の実施回数を年間80%以上実施する。 ②昨年度よりも対象生徒へ広く関わる時間を増やす。 ③校内研究の日程を年7回実施し、そのうち3回で全教科の研究授業を行い、授業力向上に努める。 ④学期1回の管理職による授業観察とその振り返りを行う。 ・教員同士の相互授業参観を学期1回行う。 ・生徒授業評価アンケートの自己評価部分の肯定的な意見が80%を超えるようにする。	B	B	①英語82.1%、数学89.1%の少人数授業の実施状況であった。 ②支援、介助の人員不足になる時期もあったが、可能な限りでスマイリー対象生徒への支援をすることができた。 ③研究授業では、各分科会に講師を招聘し、専門的な視点から研究授業を見ていただくことで、授業力の向上へとつなげることができ、次年度に向けた課題を確認することができた。研究授業の成果を日常の授業で反映し、継続しようとする意識に個人差があるのが課題である。 ④相互授業参観は全員実施した。生徒自己評価は全項目94.5%以上であった。	①来年度も継続して80%以上の実施を目指す。 ②今後も、可能な限り対象生徒に広く関わる時間を確保できるよう、市教育委員会と連携して体制づくりを行う。 ③次年度は、単元を貫くねらいの追究と毎時間のまとめの時間の設定とし、研究を深める。 ④教員の間で教科の枠を超えた意見交流が定着してきたので、今後も継続する。		
思いやる心を養おう(重点目標)	心の教育の充実	基本的生活習慣の確立	生徒が自ら進んで元気な声であいさつをする心を育てる。生徒会活動の取組としてあいさつ運動を実施する。	生徒アンケートで「生活習慣を身に付け、礼儀や学校のきまりを守っている」の肯定的な意見の割合を合計90%以上にする。	B	B	生徒アンケートでは93.8%で、保護者アンケートでは88.4%であったため、前期よりも生徒と保護者の乖離は減少した。	今後も学校では自らすすんで元よく挨拶ができる生徒の育成を目指して取り組んでいく。	A	
			一人一人がその子らしくいられた安心した環境づくり 思いやる心の醸成及び共生する心をもった生徒の育成	①研究奨励校の取組として、各教科で包摂力を高める取組を授業に取り入れる。 ②人権尊重教育推進校の研究成果及び子ども基本条例を踏まえた生徒主体の取組を充実させる。 ③特別支援学級との交流・共同学習を行う。	①校内研究の日程を年7回実施し、そのうち3回で全教科の研究授業を行い、授業力向上に努める。 ②生徒会活動等、生徒主体での諸活動の実施(カジュアルウィーク年3回) ③各教科や行事、部活動等様々な場面で交流・共同学習の機会を実施する。	B	A	①「思いやる心」と「包摂力」を授業内で育むというテーマで発問の工夫や教師の働きかけについて研究授業及び研究協議を年7回実施できた。 ②カジュアルウィークを毎学期1回実施、きまりの検討も継続している。生徒主体のボランティア活動は適宜実施し、人権の取組等を各専門委員会で継続している。 ③体育大会でエイサーの発表や個人での部活動での交流、教科によって様々な交流・共同学習が実施できた。		①今年度の研修で学んだ、協働的な学びの時間を充実させるために、各教科で答えが1つに決まらないようなテーマを元に話し合い活動をさせることや、授業内での教員の言葉かけや関わり方を工夫する取組を実践していく。 ②この機会をとらえて、多様性への理解や個性の尊重へと考えを深めるような啓発を行う。 ③A組からの交流・共同学習が積極的に進んでいるので、交流学習時の人間関係の深まり等も意識していく。
			いじめ・不登校傾向の早期発見・早期対応 魅力ある学校づくり	①いじめに関するアンケートを実施する。 ②生徒によるいじめ予防活動(スクール・パディ)を活性化させる。 ③学校生活満足度調査を実施する。 ④学年ごとに構成的グループエンカウンターを実施する。	①アンケートを各学期1回(6月、11月、2月)実施し、気になる生徒への聞き取りを確実に行う。 ・生徒アンケートで、「いじめをせず、許さず、見逃さない態度が身に付いている」の割合を85%以上にする。 ②毎月定例会を実施、通信を発行し、生徒会朝礼で、スクール・パディの取組を報告する機会を設定する。 ③年2回実施し、教員研修の時間を設定し、2回の結果の推移や比較を行い、より良い人間関係の構築ができていくか検証する。 ④適切なタイミング(学期初め、行事等)を捉えて実施する。	B	A	①ふれあいアンケート年3回の実施はでき、その都度早期発見、対応へとつながられた。その中で、「軽い気持ちで傷つくことを言ったことがある」と回答した生徒が13%いたので、いじめのきっかけとなる言動の未然防止が課題となる。 ・「いじめの無い学校づくり」については生徒アンケートでは89.7%だが、保護者アンケートでは64.3%と大きく乖離が見られるので、学校や家庭での生活の中で、思いやる心が行動に表れ、変容が伝わるよう指導を継続していく。 ②適正に実施されている。 ③年2回実施済みで、講師の指導をいただきながら、各学年で分析、情報共有を行い、生徒理解の一助とすることができた。 ④学期1回の実施ができていく。時期についても学期始めや行事の前等、効果的な時期に行うことができた。		①次年度も年3回の取組を有効に活用していく。いじめのきっかけとなる言動の未然防止に向けてスクール・パディの取組や、研究奨励校の取組『「思いやる心」と「包摂力」をもった生徒の育成』を推進する。また、人権出前授業も継続し、心の教育を充実させる。 ・②にあるスクール・パディ日より等をすぐる配信するなど、保護者への周知に努める。 ②次年度も継続していく。 ③次年度も年2回の研修会を継続する。 ④学校生活満足度調査の結果を参考にし、次年度も行事等の適切な時期を捉えて構成的グループエンカウンターを実施することで、生徒間の人間関係の醸成に努める。
			情報モラル教育の推進	①セーフティ教室において、SNSの使い方等の情報モラル教育を実施する。 ②SNS一中ルールの周知・徹底からSNS家庭ルールの普及へつなげる。	①セーフティ教室への保護者の参加を促し、SNS家庭ルールの確認の契機とする。 ②ふれあい月間アンケートの中にSNS一中ルールの項目を入れ、周知・徹底と検証を行う。 ・適切な情報提供とSNS一中ルールをもとに、各家庭でSNS家庭ルールを作成してもらい、家庭における情報端末の管理を促す。 あわせて、SNS上では、被害者にも加害者にもなりうるという意識をもたせる。	B	B	①土曜公開授業と合わせて実施したが、304家庭が参加するも、セーフティ教室への参加は少ない状況であった。 ②アンケート結果で生徒の認知度は89.5%で、96.1%が「ルールを(含む概ね)守れている」と回答している。保護者アンケートの結果の「子供がSNS一中ルールを守れているか」については79.8%で、1年生は68.2%と低かった。今後も継続して普及啓発を行っていく。		①次年度も家庭でのSNSの使い方や「加害者になることもある」という意識が高まるよう情報を発信していく。 ②SNS一中ルールの認知度は高いが、実際の使用方法や、SNS家庭ルールの徹底を特に第1学年から高めていけるよう啓発していく。
学校や郷土を愛する心の育成	地域人材の協力を得て「一中生も地域の一人である」という意識を育成する。	・生徒と地域の方と共に一橋大学前バス停一中花壇の整備を定期的に、花植えを年2回行う。 ・地域ボランティアの協力のもと駅前花植えボランティア活動を共に実施する。 ・地域の方の協力のもと、9月に桜の芽接ぎ、2月に接ぎ木を行い、地域に貢献することに誇りをもてる生徒を育成する。 ・地域学校協働活動推進員と連携し、地域人材を活用した「コミュニティ部」の立ち上げ及び活動を軌道に乗せる。	B	A	・花植え、水やりを行ったが、酷暑で枯れてしまっていたので、当番等の方法について今後の改善につなげたい。 ・地域ボランティアとともに充実した活動とすることができた。 ・9月の桜の芽接ぎと3月の接ぎ木は約30名の生徒が参加して行った。 ・コミュニティ部として順調に活動が行われている。	・天候に関してはやむを得ない部分もあったが、確実に当番が機能するよう生徒に考えさせていく。 ・今後も地域の一人である意識を高める活動として充実させる。 ・次年度もより一層生徒主体の活動として継続していく。 ・さらに地域の活動として充実させ、教員の働き方の改善にもつなげていく。				
養豊かな創造性を	性豊かな養心や創造	特別活動の充実	①感性を磨き、創造性を高める校外学習、体験学習を充実させる。 ②実行委員会を設定し生徒が主体的に考え、自ら創り上げる学校行事、生徒会活動を充実させる。	①自然体験教室(1年・1月) 東京グローバルゲートウェイ(TGG)校外学習(1年・8月) 校外学習(2年・1月、A組・5月) 職場体験(2年 A組・10月) 修学旅行(3年・9月) 合同宿泊学習(A組・11月) ②体育大会(5月) 合唱コンクール(10月) 生徒会活動の活性化(年間10回以上)	B	A	①全ての行事を滞りなく適切に実施できた。 ②体育大会は生徒の意見や様々な生徒が楽しめる体育大会という観点で企画・運営することができた。生徒会活動はこまめで10回実施し、主体的な活動が行われている。合唱コンクールは運営、司会、会場準備等全て生徒主体で実施することができた。	①2年職場体験について、地域の受け入れがしやすい実施方法がないか模索し、今年度同様早い段階から準備を進めていく。 ②短い準備期間、練習期間の中ではあるが、各行事が生徒主体の取組となるよう指導を充実させたい。	A	
健康な心身をつくろう	安全管理の徹底	生徒の安全確保対策の徹底	①防災教育、安全指導による、自他の命を自ら守ろうとする態度を育成する。 ②定期的な施設点検、来訪者の対応などにより、安全確保の意識を向上する。 ③生徒、保護者への適切な情報発信及び注意喚起を行う。 ④PTAと連携した安全な行事の運営	①様々な状況を想定した避難訓練(月1回) 地域と連携した防災訓練(8月) 薬物乱用防止教室(7月) セーフティ教室(5月) 自転車交通安全教室(11月) 不審者対応訓練(2月) 教員のAED研修・救命救急講習(4月) アレルギーマシンの使用研修(4月) ②施設点検(定期) 来訪者対応(毎日) ③学活や「すぐる」等において適宜、注意喚起を行う。 ④体育大会における熱中症予防対策の実施(生徒席テントの設置、ドリンクステーションの設置)	A	A	①それぞれ計画した時期に実施できている。不審者対応訓練を近隣での事件があったことから危機管理マニュアルを見直した形式で6月に前倒しで実施することができた。 ②施設点検は業者を通じて適切に行われている。保護者アンケートの御意見も参考に用務員とも情報を共有しながら、必要に応じて修繕等を行うことができていく。防犯上の観点からもQRコード付き保護者証の活用と、名札の着用の呼びかけの普及、促進に努める。 ③地域からの情報や学校から発信する連絡の「すぐる」での発信量は、昨年度よりも増加させることができた。 ④体育大会ではPTAの協力もあり、2年連続熱中症になる生徒を出さずに実施できた。	①生徒の生命を守る研修は、引き続き実施する。避難訓練では教師の講話だけではなく、生徒会役員から全生徒への訓練の重要性や、災害時の対応について呼びかけるなど充実させる。地域と連携した避難訓練は設備等も充実させていく。 ②関係業者と連携して、より過ごしやすい環境づくりに努める。 ③次年度も継続していく。 ④PTA、地域と連携して、より一層の安全な実施に努める。	A	
達成状況の指標 A:100%～80% B:79%～50% C:49%～0%										